

編集後記

今からちょうど30年前、アメリカ合衆国メリーランド州ベセスダにある国立衛生研究所（NIH）に留学しておりました。ベセスダという地名は、イエスが、安息日にもかかわらず、病に苦しむ人々に癒しを与えたエルサレムの泉に由来します。初めての海外経験で、何にでも驚きましたが、NIHの図書館に入ったとき、有名な科学雑誌の各号が、その月の初めにすべて書架に並んでいるのを見て大変驚いたのを鮮明に覚えています。インターネットのない当時、船便で送られてくる欧米の雑誌が日本の書架に並ぶのは、2ヶ月遅れが当たり前でした。しかし、NIHでは欧米の一流誌が、船便を使っている気配はありません。12月に新年特大号が読める「文藝春秋」のように、科学雑誌も刷り立ての“鮮度”を競っているように見えました。“先進国”日本から船便で届く2ヶ月遅れのJ. Biochem. (Tokyo)に手を伸ばす人がいるだろうか、と溜息が出たのを思い出します。科学雑誌の“鮮度”といっても、ネット配信の時代となっては意味のないことでしょう。蛇足ですが本誌の各巻1号の発行は6月31日、2号は12月31日のため、2号が皆さんの手元に届くのは、残念ながら、ほぼ確実に1年遅れ（翌年）となります。発行日を1日遅らせ、「2号」でなく「1号」を1月1日、「2号」を7月1日の発行にできたら、どんなにすっきりするだろうと考えているのは、おそらく私だけでしょうね。ふと30年前の懐かしい記憶がよみがえった次第です（田隈記）。

次号（第32巻、第2号）の発行は平成25年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは平成25年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2012年第32巻、第1号の巻末をご参照ください。